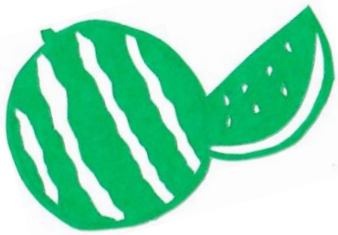
だいこく通信　第五十八号「夏の号」

ごあいさつ

六月二十一日に東京に今年の梅雨入り宣言が出されました。平年よりも二週間遅いとのことです。少し前から天候が落ち着かず、寒暖の差の大きい日々が続いていました。大きな規模で気候が変わりつつあるのだろうかなどと考えておりました。

今年の夏も暑くなりそうです。みなさまどうぞご体調に気をつけてお過ごしくださいませ。

社報「だいこく通信」第五十八号をお届けします。今回の内容は、当神社の最新情報をお伝えする「大國神社の今」、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。



大國神社の今

○だいこく落語会開催決定しました！

当神社での落語会も今回が十回目となります。おなじみ古今亭菊之丞師匠をお迎えしての独演会です。

第十回だいこく落語会　古今亭菊之丞独演会
令和六年十月十二日（土）午後五時開演

ご予約も受け付けます。どうぞよろしくお願いいたします。

お宮あれこれ～占いのはなし～

雑誌にはよく占いのページがありますし、書店に行くと、占いに関する本をたくさんみかけます。今回は「占い（うらない）」ということばについてお話しいたしましょう。

「うらなう」ということばは「うら」に接尾辞「なう」がついたものです。「うら」は「心」をあらわすのではないかとされます。「うら」の対語は「おもて」で、古くは「顔」をあらわしました。「顔」は人や動物の見えている部分の代表なので、それと対になる「うら」は見えていない内面をあらわしていたのでしょう。

その「うら」の意味が変化して、神意、つまり神様の御心をあらわしたのが「うらなう」の「うら」です。この場合の「うら」は事物にあらわれる現象をもとに、物事の成否を判断するものでした。よく知られているのが、「太占（ふとまに）」「亀卜（かめのうら）」です。それぞれ、鹿の骨や亀の甲を焼いて、その時にできる裂け目や模様によって判断しました。

そのほかにも、「足うら」「石うら」「道行きうら」「水うら」「矢うら」「夕うら」など、いろいろな方法による「うら」が行なわれました。のちには中国から筮（めどぎ）を数えて行なう卜筮（ぼくぜい）という易（えき）の方法が伝わって一般化しました。「筮」というのは、五十本の細い棒で、はじめは、蓍萩（めどはぎ）の茎を用いましたが、後には多く竹で作るようになったので、「筮竹（ぜいちく）」と呼ばれました。神祇官、陰陽寮など中央の役所の中でも行なわれる一方、道端でおこなう大道易者も登場しました。そのほかにも、そろばんを使う「うらさん」や、あらかじめ用意されたおみくじのようなものを売り歩く「つじうら」などさまざまな方法があり、こういったことを生業にする者もいました。

なお、易で占った結果としてあらわれる、陰と陽の組み合わせを「卦」といいます。陰陽を示す爻（こう）を三つ組み合わせると、全部で八通りの「卦」ができます。それぞれ「乾（けん）・兌（だ）・離・震・巽（そん）・坎（かん）・艮（ごん）・坤（こん）」と呼ばれます。易経（周易）では、この八卦をさらに二つずつ上下に組み合わせて六十四卦としました。

ちなみに、相撲の行司の掛け声の「はっけよい」は易の「八卦」からきているとされてきたのですが、「はっけよい」の語源には諸説があるそうです。日本相撲協会の審判規定には「『ハツキヨイ』―発気揚々を意味し」（行事・第七条）とあります。「はっけよい」ということばは、相撲の立合、及び力

士が技をかけなくなったときにかけられる掛け声で、動きが止まっている状態に対し、動作をするように促すことばと言えます。そう考えると、動詞の命令形と関係することばである可能性が高いといえます。というわけで、「はっけよい」の語源は「八卦よい」ではなく、「早競（はやきほ）へ」（「早く勝負せよ」）（岡崎正継「ハッケヨイの語源について」）と考えるのがよいとのことです。

さて、「うらなう」の「なう」は、あるものごとをあらわすことばについて、そのものごとをなす、あるいはそのものごとを生じさせるという意味をあらわします。

たとえば、「担う（になう）」は「に＋なう」で、「荷を運ぶ」、「肯定」をあらわす「うべ」ということばに「なう」がついた「うべなう」は「同意する」という意味をあらわしました。また、古い時代には「おとなう」ということばがありました。「音」に「なう」がついたもので、もともとは「音がする」「聞こえる」という意味でしたが、意味が変化して「訪問する」「手紙を送る」ことをあらわすようになりました。

神社やお寺でひく「おみくじ」も、神仏のご意向をうかがうものです。当神社でもご用意しております（一回十円です！）ので、ご参拝の折はどうぞひいてみてください。

参考文献　［ジャパンナレッジ利用］『日本国語大辞典』『日本大百科全書』『世界大百科事典』

祭礼・祈祷などのご案内

○次回甲子祭
　令和六年八月二十八日（水）　午前五時～正午

○開運千人講祈祷祭　毎月一日　午前六時～正午まで

○諸祈祷受付　　商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次ページの電話番号もくはメールにてお願いいたします。
　不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しください。のちほどこちらからご連絡いたします。

〈お問い合わせ・お申し込み〉
　携帯　　〇八〇―一九八七―八七一六
　eメール　daikokujinja@gmail.com

（連載まんが）

大吉うさぎ

～神社豆知識　その18～

くま こまち 作

次号発行予定

「だいこく通信第五十八号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、令和六年十月二十七日甲子祭に発行予定です。

「だいこく通信」第五十八号　令和六年六月二十九日発行
編集・発行　大國神社社務所
〒一七〇―〇〇〇三　東京都豊島区駒込三―二―十一
http://www.daikokujinja.org